

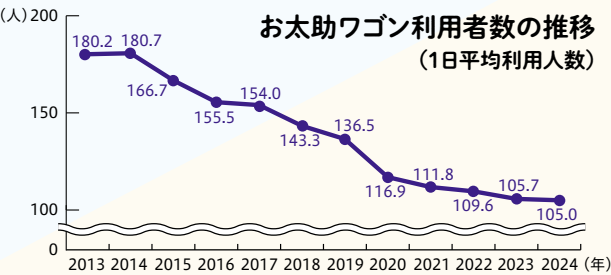
地域と人をつなぐ、 便利で安心な交通へ

人口が減る中、全国的に交通の仕組みを見直す動きが広がっています。しかし安芸高田市では2010年以来、見直しを行っておらず、今の環境に合った効率的な運行ができていません。よって今後、持続可能で便利なまちづくりを進める「都市計画マスタープラン」に基づき、まちをコンパクトにまとめながら、便利に行き来できるネットワーク型の交通体系を目指します。2026年度から段階的に見直しを行い、使いやすく維持しやすい仕組みを整えていきます。

市の交通が今のままでは難しい理由

利用者数の低下

お太助ワゴンの利用者数は年々減少し、2014年からの10年間で、年間利用者数が40%以上減少しています。路線バスも同様に利用者数は減少し、赤字が続いています。



ドライバー不足

安芸高田市だけでなく、全国的にドライバー不足が問題となっています。将来的に人口減少が進み、より一層人材不足の深刻化が見込まれるため、効率的な運行が必要です。

利用状況と課題

お太助ワゴン	お太助バス
▶ 主な使われ方 買い物や通院	▶ 主な使われ方 通勤、通学
▶ 課題 時間が合わない、 利用できる時間が短い など	▶ 課題 昼間はお太助ワゴン と重複しており、利用 が少ない など

非効率な運行形態

現在、吉田町と各町間は、お太助バスとお太助ワゴンが運行しています。移動手段が重複し、利用者が分散することで非効率な運行になっています。

例) 現在は向原・吉田間をお太助バス、お太助ワゴン、路線バス(備北交通)が運行。

お太助ワゴン・お太助バスの運行内容変更スケジュール

	2026年	2027年
	4月	
甲田町・向原町	現状どおり	2026年4月から変更
		4月
美土里町・高宮町	現状どおり	2027年4月から変更
吉田町・八千代町	変更はありません	

便利で持続可能な交通へ — 見直しのポイント

1 重複区域の見直しと役割の明確化

現在、各町から吉田町へは「お太助バス」と「お太助ワゴン」が運行しており、交通手段が重複しています。また、周辺部では極端に利用が少ない路線があるため、効率的な運行のために役割を明確化します。



お太助ワゴン
の役割

- 各区域内を循環
- 事前登録 必要
- 乗車予約 必要
- 乗降場所 エリア内ならどこでも可能



お太助バス
の役割

- 各区域と安芸高田市の中心(吉田町)をつなぐ主路線
- 乗車予約 不要
- 乗降場所 各バス停

美土里・高宮区域

2027年4月～運行内容変更

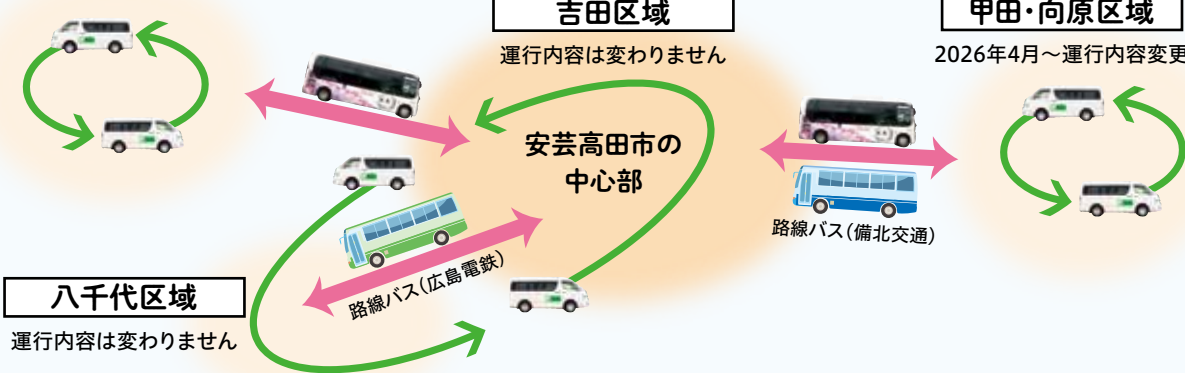
〈変更後の運行イメージ〉

吉田区域

運行内容は変わりません

甲田・向原区域

2026年4月～運行内容変更



区域外移動に乗り継ぎが必要になります

お太助バスとお太助ワゴンの役割が、「中心との接続」と「区域内の循環」に明確化されるため、区域外の移動の際にお太助バスとお太助ワゴンの乗り継ぎが必要になります。

〈例〉甲田町高田原(旧小田東小学校付近)の自宅から吉田町の吉田病院へ行く場合



2 お太助ワゴンの利便性向上

運行時間の拡大

より利用しやすくするため、利用時間を延長します。

【変更前】8:00～16:00 【変更後】7:00～19:00

運行間隔を変更

定時に加え、車両が空いていれば時間に縛られず乗車できる仕組みに変更します。

3 お太助バスなどの増便

市中心部(吉田区域)とその他の区域を結ぶお太助バスなどの便数を増やします。 ※式敷線・美土里中央線など

2026年4月からどう変わるの?

→ 2026年4月の変更内容は
広報「あきたかた」2026年2月号に詳細を掲載します。